

Slovenia Monthly March 2019

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年4月17日



～3月の主なポイント～

- 内政：** 新たな文化大臣，環境・空間計画大臣，保健大臣が就任
2019年補正予算案が可決
- 外政：** パホル大統領，環境保護に関する国連会合に出席
- 経済：** 政府系シンクタンク，2019年の経済成長率の予測値を3.4%に下方修正
- 治安：** マリボル市長が経営するレストラン等への器物損壊事件
- スポーツ：** 自転車ロードレースワールドツアーでスロベニア人選手が総合優勝

政治

【内政】

●新文化大臣が就任【8日】

国民議会は、本年1月に辞任したプレシチェク文化大臣の後任候補として推薦されたポズニッチ氏 (Mr Zoran Poznič, 社会民主党(SD)所属)の文化大臣任命にかかる投票を実施し、同氏は、賛成47票、反対19票を得て承認された。国民議会での投票を前にして、シャレツ首相は、「文化は、その他の分野と同様に意欲的に取り組まなければならない分野であると考えている。ポズニッチ新文化大臣には、新メディア法、国家文化プログラム等の解決を期待する」と述べた。なお、ポズニッチ大臣は、これまでトウルボヴリエの文化センターで約10年間所長を務めていた。



ポズニッチ文化大臣 (Photo: Daniel Novakovič/STA)

●保健大臣が辞任【8日】

8日、ファキン保健大臣は、シャレツ首相に対し、健康上の理由により大臣の座を辞任する旨を伝達した。同大臣は、本年2月18日から病気休暇を取得しており、日刊紙の取材に対し、「保健関連法の改正は非常に困難な業務であり、(達成のために)健康な人間が必要であるが、自分はそうではない」と述べた。一方、シャレツ首相は、「(改革の)目標が変わることはない。ファキン大臣は保健制度を熟知している数少ない人物の1人で、真の問題を見つけて対処していた。同大臣は高い目標を掲げたため、病気のままでもやり遂げることは難しいと判断した。我々にはやり遂げる能力のある人物が必要であるが、簡単な任務ではない」と述べた。なお、シャレツ内閣における閣僚の辞任は、バンデリ開発・戦略事業・結束担当大臣、プレシチェク文化大臣、レーベン環境・空間計画大臣に続き、今回で4人目となる。

●2019年補正予算案が可決【6日～20日】

6日、国民議会は2019年補正予算案を可決した。同補正予算案は、すでに採択された2019年予算に対し、歳入は約6億ユーロ(6.2%)、歳出は約4.6億ユーロ(4.8%)を上乗せするもので、歳入は約103億5000万ユーロ、歳出は約101億6000万ユーロで、歳入・歳出ともに予算案として初めて100億ユーロを超えた。

13日、国民評議会は国民議会が可決した補正予算案の審議を行った結果、同補正予算案の承認を拒否し、国民議会に予算案の差し戻しを行った。国民評

議会の地方代表議員は、昨年11月に政府と地方自治体は地方交付金増額について合意したが、その後、政府が公務員労働組合と公的セクターの賃金上げにつき合意したため、地方自治体の負担も増加し、交付金増額の効果が無効化されたと述べた。

20日、国民議会は、同補正予算案の再審議を行い、賛成多数で可決した。今般の投票では、定員90の内、過半数の46票が必要であったが、連立与党政党に加え、閣外協力を行う左派及び野党の国民党(SNS)が賛成票を投じて可決された。

●環境保護のための学生デモが各地で開催【15日】

環境保護を主張する学生を中心としたデモがリュブリャナ市中心部で開催され、主催者団体「Youth for Climate Justice」によると、約9千人が参加した。リュブリャナでのデモ行進後、主催者代表はシャレツ首相と面会し、環境税改革、2030年までのショシュタニ石炭火力発電所(Šoštanj)及びヴェレニエ炭鉱の閉鎖、2040年までの道路交通における二酸化炭素排出量の40%削減等を求めた。シャレツ首相は、政府はすでに環境問題に対して多くの対応を施しており、環境・空間計画省も作業を行っていると言いつつ、若者が行動を起こし、環境問題に警鐘を鳴らしたことを嬉しく思うとして、具体的な措置がとられるよう若者の力を借りたいと述べた。

なお、同様のデモは、マリボル、コペル、ノヴォ・メスト、カムニク、オルモジュ等国内各地でも開催された。

●連立与党政党が左派との協力合意に署名【20日】

連立与党各党は、閣外協力を行う左派との2019年の協力合意に署名を行った。一方で、同合意については、連立与党内から左派に依存し過ぎているとの声が上がっており、社会民主党(SD)のマティヤジュ・ハン議員は、「政府は当初から左派に依存しており、連立パートナーである社会民主党よりも(閣外協力を行う)左派の方が高い立場にいる」と述べた。

●新環境・空間計画大臣及び新保健大臣が就任【27日】

国民議会は、本年2月に辞任したレーベン環境・空間計画大臣及び今月8日に辞任したファキン保健大臣の後任として、それぞれシモン・ザイツ氏(Simon Zajc、現代中央党(SMC))及びアレシュ・シャベデル氏(Aleš Šabeder、マリヤン・シャレツ・リスト(LMS))の任命にかかる投票を行い、賛成多数で両名の任命を承認した。

ザイツ新環境・空間計画大臣は、民間企業勤務を経て、2014年から国民議会議員を務め、直近では環境・空間計画省の副大臣を務めていた人物で、投票前に、シャレツ首相は、「レーベン前大臣の下で、

環境・空間計画省は過去6か月間非常に良い仕事をしており、現代中央党(SMC)がレーベン前大臣の後任として同省の副大臣を務めるザイツ氏を提案したことを喜ばしく思う。自分はザイツ氏を(レーベン前大臣が)開始した業務を完了させ、今後発生する問題を解決し、計画されているプロジェクトを実行することを保証する人物と見ている」と述べた。

一方、シャベデル新保健大臣は複数の民間企業勤務を経て、2018年よりリュブリャナ大学病院院長を務めていた人物で、シャレツ首相は、「シャベデル氏(を大臣候補とする提案)は、十分に考え抜かれ、確かな情報に基づいた選択である。同氏は(保健分野の)制度的・法的欠陥について認識しており、また、経済学部を卒業し、財政にも精通しているほか、民間企業のマネージャーを務めた経験から、仕事についても理解しており、医療従事者や労働組合の声も聞いてきた」と述べた。



ザイツ環境・空間計画大臣
(Photo: Daniel Novakovič/STA)



シャベデル保健大臣(Photo: Daniel Novakovič/STA)

【欧州議会選挙関連】

●欧州議会選挙に向けた動き

4日、マリヤン・シャレツ・リスト(LMS、中道左派)は、「POP TV」ジャーナリストのイレナ・ヨヴェヴァ氏(Ms. Irena Joveva)を5月に予定されている欧州議会

選挙における同党の筆頭候補者とすることを発表した。また、クレメン・グロシエリ国防副大臣(Mr. Klemen Groseelj), 財政コンサルタントのカティア・ダムイ氏(Ms. Katja Damij)も候補者となる旨も併せて発表した。

6日、アレンカ・ブラトゥシェク同盟(SAB, 中道左派)は、連立政権のパートナーであり、同じくALDE(欧州自由民主連盟グループ)に所属する現代中央党(SMC, 中道左派)との共同候補者リスト作成を断念し、独立して選挙に臨むことを決定した。

9日、左派(The Left, 左派)はトウルボリエで党集会を開催し、欧州議会選挙に向けヴィオレタ・トミッチ国民評議会議員(Ms. Violeta Tomič)を同党候補者リストの筆頭候補者とすることを発表した。

21日、現代中央党(SMC, 中道左派)は、同党から欧州議会選挙に望む候補者を発表し、グレゴル・ペリッチ国民議会議員(Mr. Gregor Perič)を同党の筆頭候補者とすることを決定した。

22日、年金者党(DeSUS, 中道左派)は、イゴル・シオルテス(Dr Igor Šoltes)欧州議会議員を同党候補者リストの筆頭候補者とすることを発表した。

29日、SABは、同党の筆頭候補者に、現在の任期ではオーストリア枠で欧州議会議員に選出されているアンゲリカ・ムリナル欧州議会議員(Ms. Angelika Mlinar)を擁立することを発表した。

30日、野党民主党(SDS, 中道右派)と野党人民党(SLS, 中道右派)は、両党が欧州議会選挙において共同候補者リストで共闘する旨を発表し、同時に候補者リストも発表した。発表によると、筆頭候補者はSDSのミラン・ズヴェル欧州議会議員(Mr. Milan Zver)で、リストの第2位及び第3位は同じくSDSのロマナ・トムツ欧州議会議員(Ms. Romana Tomc), パトリツィヤ・シュリン欧州議会議員(Ms. Patricija Šulin)で、第4位にSLS所属のフランツ・ボゴビッチ欧州議会議員(Mr. Franc Bogovič)がリストアップされた。

【外政】

●パホル大統領、アルバニア大統領と会談【4日】

パホル大統領は、アルバニアを訪問し、メタ大統領と会談を行った。会談において、パホル大統領は、西バルカン地域へのEU拡大は地政学的に重要であると強調し、スロベニアは技術的支援等を通じてアルバニアのEU加盟に向けた努力を支援する旨改めて表明した。また、両大統領は、本年5月にアルバニアが主催する予定のブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合につき意見交換を行い、これまでの地域の安定と発展に向けた協力を評価し、今後はビジネス分野においても協力を強化していくことが重要であるとの共通認識を確認した。なお、今回の訪問において、パホル大統領は、ラマ首相及びルチ国会議長とも会談した。

●ツェラル外相、北マケドニア副首相と会談【6日】

ツェラル副首相兼外務大臣は、スロベニアを訪問中のオスマニ・北マケドニア副首相(欧州担当)と会談した。ツェラル外相は、北マケドニアの隣国との係争解決に向けた努力及び諸改革を評価し、本年6月に開催されるEU首脳会合において、スロベニアは北マケドニアのEU加盟交渉の開始に対する支持を表明する旨述べた。これに対し、オスマニ副首相は、「北マケドニアのこれまでの取組は、EUの価値観を推進するためにも評価に値すると考える。スロベニアが、他のEU加盟国に対しても、我々のストーリーに対する理解を促して頂けることを期待する」と述べ協力を要請した。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●2021年EU議長国に向けた準備【7日】

政府は、2021年後半のスロベニアのEU議長国就任関連の計画に関し、総経費8000万ユーロの歳出を計上し、閣僚会合30件、その他の会合約2000件等を開催する旨の付託条項を承認した。マリ首相府副大臣(Igor Mally)は、「議長国としての任務は複雑かつ責任の大きいものだが、スロベニアの議長国就任は2008年に続き2回目となるので、前回の経験を踏まえて準備を進めていく」と述べた。同副大臣によれば、主な会合はブラッセルに於いて開催され、閣僚会合10件程度がスロベニアのブルドー国際会議場において開催される。また、同副大臣は、議長国の機会を捉えてその他の多くの会合をスロベニア各地で開催し、観光促進にも繋げたいと述べた。

●ツェラル外相、エジプトを訪問【13日~14日】

13日から2日間、ツェラル外務大臣はエジプトを訪問した。エルシーシ大統領との会談では、テロ対策、移民問題等について意見交換を行い、ツェラル外相は、EUの一員として、エジプトをはじめとする中東・アフリカ諸国との協力強化を通じたテロ対策また不法移民対策を支持する旨述べた。また、同外相は、シクリ外務大臣との間で、科学・農業・デジタル化等の分野における協力、消費者保護及び市場監視にかかる

協力に関する2件の覚書に署名した。さらに、両外相はビジネス・カンファレンスに出席し、スロベニア・エジプト間の2018年貿易総額が前年と比べて倍増し1億6千万ユーロに達していることを強調し、歓迎したほか、同カンファレンスでは、コペル港運営会社の「Luka Koper」社が欧州地域におけるコペル港の重要性等をプレゼンした。

●英国議会下院によるEU離脱協定案否決: ツェラル外相の反応【13日】

12日の英国下院におけるEU離脱協定案否決に関し、13日、エジプトを訪問中のツェラル外相は、他のEU加盟国が英国による離脱延期の要請に合意するのであれば、スロベニアも同様に延期要請に応じる用意がある旨発言した。また、同外相は、個人的な意見であるとしつつも、英国がノーディールにより離脱するよりは、英国による離脱の短期的な延期を受け入れるほうがまだ好ましいとの見解を示した。他方、同外相は、スロベニアを含むEU27カ国側としては、合意達成のために十分な努力をしてきたとした上で、英国が要請する離脱延期は短期でなければならない旨、また、英国は早急に解決の道を見いだすことが肝要であると強調した。

●スロベニアのNATO加盟15周年式典【20日】

ブルドー国際会議場において、スロベニアのNATO加盟15周年記念式典が開催された。同式典でのスピーチにおいて、パホル大統領は、「NATO加盟は、スロベニアの国家安全保障及び集団安全保障を確保維持するための最善策であり、15年前のスロベニアによるNATOへの加盟決断は正しいものであった」と述べた。また、同大統領は、NATO拠出金の負担についても触れ、「近年の国際情勢の悪化及び不確実性に鑑み、NATOにおける予算拡大は避けられず、加盟国がそれぞれGDP比2%の負担が義務づけられていることは承知している。スロベニアは2024年までに国防費を1.5%にまで大幅に引き上げる」と述べた。同式典には、大統領のほか、シャレット首相、ツェラル外相、エリヤヴェツ国防相ほか政府関係者、外交団等が参加した。

また、ストルテンベルグNATO事務総長のビデオ・メッセージ、ロバートソン元NATO事務総長、カミール・グランドNATO事務次長補(国防投資担当)、ボジッチ外務副大臣、フルラン国防省補佐官らによる討論会が行われた。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●シャレット首相、対中関係を議論する欧州理事会首脳会合に出席【22日】

シャレット首相は、本年4月に予定されているEU中国首脳会合を前に、対中国関係を議論する欧州理事会首脳会合に出席した。会合後、同首相はメディアに対し、中国は、経済パートナーでもあり、競合国でもあるが、他の大国との関係と同様に、スロベニアは、中国との関係においても、国益を追求しつつも対話を継続することが重要であるとの見解を示した。また、同会合において、EU各国は対中国関係における結束を確認したものの、それぞれの経済規模、中国とのこれまでの関係等を認識する必要があると述べた。また、同首相は、中国によるトリエステ港に対する投資の影響に関して、「スロベニアにとって重要なのは、世界との接点であるコペル港という地政学的な優位性を活用し発展し続けるために、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線計画をいち早く実施に移すことである」と述べた。

●国境画定問題: クロアチア警察艇による侵入に抗議【27日】

ツェラル外相は、24日、クロアチア警察艇がピラン湾のスロベニア領域に2.5キロメートル侵入したことは明白な挑発行為であるとして、クロアチア外務省に対して口上書を発出する意向を表明した。日刊デロ紙によれば、クロアチア警察は、今回の侵入をナビゲーション装置の不具合によるものとしているが、ツェラル外相は、この説明を不十分として、また、国際法及びEUの法律に反し、このような二国間の緊張をいたずらに拡大することは容認出来ないとの見解を示した。

●パホル大統領、環境保護に関する国連会合に出席【28日~29日】

28日、パホル大統領は、ニューヨークにおいて、環境保護に関する国連ハイレベル会合に出席した。同会合において、パホル大統領は早急に気候変動対策を講じることが重要であるとの見解を示した。同大

統領は、3月15日に世界各地で若者が環境保護を訴える運動を実施したことに言及し、温室効果ガス排出量の目標を世代間で平等に設定するために、2050年までのゼロ炭素社会を目指して、2030年、2040年と段階的な削減目標を設定することを呼びかけた。

29日、パホル大統領及びグテーレス国連事務総長は、国連本部で開催された「人間の安全保障強化のための国際信託基金(ITF)」の設立20周年を記念する写真展示会のオープニング式典に出席した。両者は、ITFの国際貢献や西バルカン情勢について意見交換し、また、パホル大統領が出席した環境保護に関する会合について触れ、気候変動対策のためにより強固な政治的意志の動員が必要との見解で一致した。また、パホル大統領は、ITFの活動は1998年以降、地雷除去のみならず、人々の支援に焦点を充てて、1303名の地雷被害者の支援をしてきたと述べた。



(Photo: 大統領府)

●米国によるゴラン高原のイスラエル主権承認:ツェラル外相の反応【30日】

ツェラル外相は、米国がゴラン高原のイスラエル主権を承認したことを受け、同承認は一方的なものであり、スロベニアを含め国際社会を驚かせたとのコメントを発表した。また、同外相は、スロベニアは国連安保理による決議に基づいて、同地域のイスラエル主権は認めないとするEUの共通立場を支持すると述べた。

経済

【経済一般、指標・統計】

●銀行部門の純利益が金融危機以降で最高益を記録【7日】

スロベニア中央銀行の報告書によると、2018年のスロベニアの銀行部門の純利益は、前年比17%増の4億9630万ユーロとなり、金融危機前の2007年

以降で最高益となった。利子等の資産運用による収入は6億7170万ユーロで前年比3%増であったのに対し、その他の収入(手数料等)が好調で4億8190万ユーロで14%増となり、また、総資産は前年比2.2%増の387億8000万ユーロであった。

●政府、輸出・FDI促進の行動計画を閣議決定【7日】

スロベニア政府は、輸出・FDI促進のための2か年(2019年-2020年)行動計画を閣議決定した。閣議後の記者会見において、カンタルティ経済開発・技術副大臣は、スロベニアのGDPの約8割を輸出が占めており、その内の8割が対欧州である点、全輸出量の5割以上が約100社によるものである点等を考慮し、同行動計画では輸出の多様化及び中小企業を中心とした輸出者の数の増加を目指していると述べた。また、輸出の重点市場として、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、フランス、V4諸国、西バルカン諸国、米国、中国等を挙げた。更に、同副大臣は、投資面では、すでにスロベニアに多くの投資を行っているドイツ、オーストリア、スイス、イタリアに加え、スロベニアでのプレゼンスを強化している米国、そしてスロベニアのICT、ロボット工学分野における投資活動の活発化が見られる日本についても投資誘致のための努力を強化していくと述べた。

●政府系シンクタンク、2019年の経済成長率の予測値を3.4%に下方修正【21日】

政府系シンクタンクのマクロ経済分析発展研究所(IMAD)は、本年度のGDP成長率の予測値を3.7%から3.4%に下方修正した。なお、2020年の成長率については3.1%、2021年については2.8%と予測されている。同研究所は、国際的な経済活動の減速により、今後、国内消費の重要性が高まり、輸出の伸びは減速すると予測しており、今後の世界的なリスク要因として米国の保護貿易政策の強化、中国の経済成長の鈍化、英国のEU離脱等を挙げている。

●政府系シンクタンク、英国のEU離脱によるスロベニア経済への影響の予測を発表【22日】

マクロ経済分析発展研究所(IMAD)は、英国のEU離脱によるスロベニア経済への影響の予測を発表した。同予測によると、英国・スロベニア間の貿易額はさほど大きくなく、英国はスロベニアにとって14番目の貿易相手国であるため、英国がEUから合意なき離脱を行った場合でもスロベニア経済への直接的影響は少なく、一方で、スロベニアの主要貿易国であるドイツ、フランス等が英国の離脱により受ける影響により、スロベニア経済に与える間接的影響はより大きくなる。また、英国が合意なき離脱を行った場合のスロベニア経済への直接的影響はGDPの-0.2%~

-1%で、英国が関税同盟に留まる場合にはより影響は少なくなり、GDPの-0.1%~-0.25%と試算されている。

●2018年住宅購入価格、前年比で18.2%上昇【25日】

スロベニア統計局は、2018年の住宅購入価格が前年比18.2%上昇したと発表した。2018年第4四半期における住宅購入価格は、2017年第4四半期と比較して、中古物件の価格上昇が顕著で、中古一戸建ては38.6%増、中古アパートは10.9%増となった。一方、新築物件については、一戸建てが5.2%増、アパートが3.3%増で、新築物件全体で3.7%増となっている。なお、住宅購入に係る取引件数は前年より14%減少した。

●首相府、小規模企業担当副大臣を任命【28日】

政府は、首相府の小規模企業担当副大臣にフランツ・ヴェセル氏(Mr Franc Vesel)を任命した。工芸・小規模企業商工会によると、ヴェセル新副大臣はこれまで木材加工産業で約30年の経験があり、リブニツァの同商工会支部長を14年務めた人物。同副大臣は、公式には首相府付となるが、今後、経済開発・技術省での勤務も可能となる。以前から同副大臣ポストの設置を要請していた工芸・小規模企業商工会は、今般の任命を歓迎するとともに、ヴェセル副大臣が小規模企業の直面する問題に対処し、ビジネス環境向上の力になることを期待するとのコメントを発表した。

●スロベニア、過去最高の財政黒字を記録【29日】

スロベニア政府統計局は、2018年のスロベニアの財政黒字が3億3000万ユーロとなり、過去最高値を記録したと発表した。前年と比較し、支出は8億8100万ユーロ増加ものの、好ましい労働市場環境と経済成長により、歳入は11億7800万ユーロ増加した。

【企業・産業の動向】

●マグナ・シュタイヤ社の自動車塗装工場、運転開始【19日】

マグナ・シュタイヤ社がマリボル郊外で建設していた自動車塗装工場が、19日、試運転を開始した。同社が申請していた環境許可証が発行されたことで、工場の稼働が可能となった。工場は、本年5月末に本格稼働する見込みで、アダム工場長は、「過去3年間、この日を迎えるために熱心に取り組んできた。ようやく製造に集中することができる」と述べた。同工場を巡っては、環境NGOが環境許可証差し止めを求めていたが、本年2月、環境・空間計画省はNGOの請求を却下した。

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、EIB経営委員会が融資を承認【19日】

スロベニア国営通信は、20日、非公式に得た情報として、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業に関して欧州投資銀行(EIB)の経営委員会が2.5億ユーロの融資を承認したと報じた。同事業は、本年2月にEIBの案件リストに掲載されており、順調にいけばEIBは4月の理事会において最終承認する見通しとなっている。なお、本件事業の総額は約10億ユーロとされており、国際金融機関、国営スロベニア輸出開発銀行(SID)、商業銀行等からの融資、政府の補助金等でファイナンスされる予定となっている。

●アバンカ銀行民営化プロセス【22日】

22日付フィナンツェ紙は、国有のアバンカ銀行の民営化に関し、入札期限までに3つの金融機関が入札書類を提出したと報じた。同紙によると、入札書類を提出したのは、米国のプライベートエクイティ投資会社のアポロ(Apollo)、ハンガリーOTP銀行、セルビアのAIK銀行の3機関。アバンカ銀行の民営化手続はスロベニア国家ホールディング社(SSH)が手がけているが、入札価格等の入札の詳細は明らかにされていない。

発見！スロベニア

スロベニアのクラフト・ビール③

「コムナイゼル(Komunajzer)」

今回は製品にユニークな名前を付けているノヴォ・メストのクラフト・ビールのブルワリー「コムナイゼル」をご紹介します。「コムナイゼル」とは否定的な意味合いにおいて「共産主義者」を指す際に使用される言葉ですが、話題作りとして、生産しているビールも旧ユーゴスラビアの故ヨシップ・ブロズ・チトー大統領にちなんで、インディアン・ペール・エール(IPA)の「Josip」、ラガーの「Broz」、そしてペール・エールの「Tito」という名前が付けられています。ちなみに、同ブルワリーの白ビールは、チトー大統領夫人のヨバンカ・ブロズにちなんで「Jovanka」という商品名になっています。



(Photo: <https://www.komunajzer.si>)

軍事・治安情勢

●マリボル市長が経営するレストラン等への器物損壊事件【28日、30日】

28日未明、サーシャ・アルセノビッチ・マリボル市長が経営する同市中心部にあるレストランの窓ガラスが、何者かにより爆発物で破壊される器物損壊事件が発生した。また、30日には、同市長の自宅門扉も何者かにより損壊され、これら一連の事件を受け、アルセノビッチ市長は、「本年3月10日にも門扉が傷つけられていた。状況は非常に深刻になりつつあり、警察が捜査を早急に進めることを期待する」と述べ、昨年12月の市長就任以前にこのような事件は発生していなかったため、「誰がこれら一連の事件の背後にいるかはわからないが、動機は自分の市長業務に関わることだろう」と述べた。

●民兵グループに有罪判決【29日】

マリボル地方裁判所は、「シュタイエルスカ守備隊」と名乗る民兵グループのアンドレイ・シシュコ代表に対し、憲法秩序の転覆を企てたとして禁錮8か月を言

い渡した。昨年9月、インターネット上に「シュタイエルスカ守備隊」メンバーが森の中で覆面・戦闘服姿で武器を把持して整列している動画が公開され、その後、シシュコ代表は逮捕、勾留されていた。

社会・文化・スポーツ

●戦死のジャーナリストへサラエボ市が表彰【5日】

ボスニア紛争初期の1992年に、包囲されたサラエボにおいて死亡したスロベニア人ジャーナリストのイヴォ・シュタンデル氏に対し、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボ市は表彰を行うこととした。同表彰は、多くの分野でサラエボの発展に貢献したとされる、ボスニア人または外国の市民、企業、団体に授与されるもの。同氏は、サラエボ包囲戦の最中の1992年6月16日に砲撃により負傷し、病院に搬送されたがその数時間後に死亡した。

●再びケバブ肉関連で問題【9日】

ドイツのバイエルン警察によると、600キログラムの不適切な処置をされたケバブ用の食肉がスロベニアのバンで輸送された。その肉は、クーラーボックスではなくプラスチックの箱で運ばれ、部分的に解凍されており、さらにすでにどこかで包装が引き裂かれた状態であったため、衛生監督官はその肉は人間が摂取するには適さないと判定し、破棄した。輸送していたスロベニア人ドライバーはチェコとの国境に近いバイエルンのマルクトレドヴィッツで止められ、肉はオーストリアに輸送していると述べたが、輸送先を証明する文書等を持っていなかった。なお、輸送していた男は有効な運転免許証を持っておらず、また、警察が薬物検査を行ったところ、メタンフェタミン陽性であると判定したため、刑事告発される可能性がある。

●2017年のスロベニアの出生率【12日】

EU統計局はEU各国の出生率のデータを発表し、2017年のスロベニアの出生率は1.62で、2016年の値(1.58)より若干上昇したほか、EU平均(1.59)よりも上回る結果となった。また、スロベニアにおける第一子出産時の母親の平均年齢は29歳で、EU平均と同様との結果が出た。なお、EU内ではフランスの出生率が1.9で最も高く、最も低いのがマルタで1.26。

●スロベニア選手、自転車ロードレースワールドツアーで優勝【19日】

スロベニアの自転車競技(ロードレース)選手のプリモジュ・ログリッチ選手(Primož Roglič)が、イタリアで開催されたUCIワールドツアーのティレーノ〜アドリアティコレースで総合優勝を果たした。同レースは3月13日より開催されており、ログリッチ選手は英国人

選手に25秒の差をつけられてスタートしていたが、逆転に成功し、0.31秒差で優勝した。同選手は3月初めにもUAEツアーで総合優勝を果たしている。

●幸福度ランキング、スロベニアは44位【21日】

国連の「持続可能な開発ソリューションネットワーク」によって毎年発行される World Happiness Report の最新版においてスロベニアは 6.118 ポイントで、前回調査より7位順位を上げ、156か国中44位となった。幸福度を示す8つのカテゴリーのうち、スロベニアは、「人生の選択の自由」と、困っているときに助けを求める人が周りにいるかを測る「ソーシャルサポート」の部で高評価を得たが、その反面、平均的な幸福度、笑い声、楽しさからなる「ポジティブ・エフェクト」カテゴリーでは114位となった。なお、同レポートによると、首位はフィンランドの 7.769 ポイント、最下位は南スーダンの 2.853 ポイントで、日本は 5.886 ポイントで58位。

●スキージャンプ、小林陵侑が優勝【24日】

スロベニアのプラニツァで開催されたスキージャンプのワールドカップ最終戦において、個人総合優勝を決めている日本の小林陵侑が、1本目のジャンプでジャンプ台記録を更新し優勝した。スロベニアの選手は、10位以内に3名が入り、ドメン・プレウツ選手 (Domen Prevc) が2位、ティミ・ザイツ選手 (Timi Zajc) が5位、アンジェ・セメニッチ選手 (Anže Semenič) が9位。なお、22日に行われた団体戦においては、スロベニアは3位、日本は4位であった。

●スロベニア、ユネスコAIセンター設立へ【28日】

政府は、ユネスコが支援する人工知能のための国際研究センターを設立する計画を承認した。同センターは、さまざまな組織や一般市民向けに、体系的かつ戦略的にAIを実装する方法を開発することを目指す。ヨジエフステファン研究所が、開発の初期段階でセンターを受入れ、同研究所内の部門の1つを新施設に対応するように改修する予定。今後、ユネスコにおいて同計画につき議論が行われ、最終的な承認は本年11月になることが見込まれている。

●女子空手、スロベニア人選手が欧州選手権で銀メダル獲得【30日】

女子空手のティヤーシャ・リスティッチ選手 (Tjaša Ristić) が、スペインのグアダラハラで開催された空手欧州選手権において、女子61キロ級で銀メダルを獲得した。同選手は、イスラエル、ノルウェー、オランダ、スロバキアの選手を破り決勝に進出。決勝戦ではトルコ選手に敗れたが、女子空手での銀メダルはスロベニア史上最高成績となった。

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会 広報レセプション開催

3月26日、グランド・ホテル・ユニオンにおいて、当館は、スロベニア日本ビジネス協会、スロベニア・オリンピック委員会及びスロベニア・パラリンピック委員会の協力を得て、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会広報レセプションを開催しました。



コウシュツァ国民評議会(上院)議長、ピカロ副首相兼教育・科学・スポーツ大臣をはじめ、スロベニア・オリンピック委員会及びパラリンピック委員会、政府・企業関係者、文化スポーツ関係者等、各界から100名以上の出席を得ることができ、大会会場や日本の魅力を伝えるDVDの上映や広報誌の配布等を行って、東京におけるオリンピック・パラリンピック大会の魅力アピールするレセプションとなりました。加えて、レセプションでは、



当館が日本及びスロベニアの多くの関係者の協力を得て作成した広報冊子「Road to Tokyo 2020」のお披露目も行われ、会場内で広報冊子に掲載された日本とスロベニアのスポーツ関係者等の写真に見入る姿も多々見られました。

レセプションの冒頭挨拶において、吉田大使は、2020年東京大会は、「多様性と調和」のコンセプトのもと、全てのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるような大会を目指し、また、世界中の人々を最高のおもてなしで歓迎できるよう現在着々と準備が進められているので、ぜひこの訪日の機会に大会観戦だけでなく観光等をも楽しんでいただきたい旨述べました。



吉田大使とパラリンピック射撃選手

また、ピカロ副首相兼教育・科学・スポーツ大臣、ガブロヴェツ・スロベニア・オリンピック委員長、ラザル・スロベニア・パラリンピック委員長、ツェラル・スロベニア・スポーツ・寛容・フェアプレー大使(1964年東京五輪メダリスト)及びスケンデル・スロベニア日本ビジネス協会事務局長からご挨拶を頂き、大会を契機にスポーツ分野のみならず、様々な分野での日スロベニア交流がさらに発展することを期待する、日本との交流が大会後も長く継続することを期待する、2020年東京大会が特別な大会となることを確信する等の温かい言葉を頂きました。

<スロベニアと1964年東京大会>

1964夏季東京オリンピック大会は、10月10日から24日まで開催され、20のスポーツ種目に93か国から5152名の選手が参加しました。ユーゴスラビア代表チームの一員として参加した18名のスロベニア人選手のうち、ミロスラウ・ツェラル氏(Miroslav Cerar)は体操競技において2つのメダル(鞍馬で金、鉄棒で銀)を獲得し、素晴らしい成績を残しました。



吉田大使とツェラル・スポーツ・寛容・フェアプレー大使

<ホストタウン>

本大会開催に向け、スポーツ立国、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を行うホストタウン。スロベニアとの交流を目的に、新潟県妙高市、福井県福井市及び鹿児島県鹿屋市の3都市が登録されています。

ドベルゲン（スロベニア語で「こんにちは」）！今回は前号で紹介したレース「Ratitovec（ラティトベツ）」の会場である Železniki（ジェレズニキ）の近くにある町をいくつか紹介していきます。

2年前は大会のスケジュールの関係上、2週間ほどスロベニアに滞在する必要がありました。その際にお世話になったのが大切な友人 Simon。マスターズのチャンピオンで、年齢は僕より1回り上だけれどコンスタントに成績を残しています。アクセスやおすすめの滞在場所を相談したら、「うちにホームステイすればいい。俺も Fujio と同じレースに出るから、レースまでの日々は一緒にトレーニングや観光もしよう。」とこれ以上ないありがたい申し出。現地の人暮らしに触れることが出来、今後の競技のことを考えると、彼がなぜこんなにもタフなのか知りたい！そう考えた僕は素直にこの申し出に甘えることにしました。

レース会場から彼の住む Tržič（トルジッチ）へ車で移動。Tržič（トルジッチ）は Kranj（クラン）の近くにある彼曰く「小さな町、もしくは大きな村」。途中、せっかくだからと景色の良いルートを選んで通ってくれました。



丘上の教会、歩いて数分の駐車場からの道も素晴らしい。



クロパの町ではこういった造作物全てが鉄で出来ている。

最初に通ったのは「Dražgoše（ドラジュゴシェ）」というとても小さな集落で、あっと言う間に通り過ぎてしまったので写真に収めることはできず。第二次世界大戦でパルチザンとドイツ軍の大きな戦いがあり、村は焼き尽くされたとのこと。今は再建しているが、スロベニアの人々にとって忘れ難い場所だそう。

次に通ったのはとても小さな集落「Jamnik（ヤムニク）」。丘の上にある教会がとても美しい。絵本の世界に出てきそうな場所で360度近いパノラマを持っており、ここからあたりを眺めると、僕が出たことのある大会のコースになっている山をいくつも見る事が出来た。気づかぬうちに僕は随分とたくさん場所を訪ねていたようだ。また後日、Slovenia のオフィシャル instagram を見ていると、ここは度々登場するまさに SNS 映えする魅力的な場所。アクセスが決して良くない場所だけれど、それがこの景観を保つ上でも役立っているのかもしれない。改めて書こうと思うのですが、スロベニアには美しい教会が多い。この辺りの魅力もぜひ知っていただきたいと思います。

最後に通ったのが「Kropa（クロパ）」。先月のレースで釘作りの体験をさせてくれた製鉄の町。伝統的な製法で製鉄を行い、町の手すりやモニュメント、いたるところにお手製の製鉄作品がある、のどかな町。…と道なりに幾つかの町に立ち寄りながら Tržič へ。どれもガイドブックで知ることのできない場所ばかり。

次号も滞在での経験や感じたことを書いていきます、お楽しみに。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●国際交流基金海外巡回展「映像と物質」開催中です。

本展覧会では、1970年代の版画表現の主要な傾向を紹介しつつ、版画によって切り開かれた1970年代の現代美術の動向を紹介するものです。

○期間: 3月22日(金)18時~5月19日(日)

○場所: 国際グラフィックアートセンター(MGLC: Mednarodni grafični likovni center)

(住所: Pod turnom 3, 1000 Ljubljana)

MGLC ホームページ: <http://www.mglc-lj.si/>

* チボリ城への通常入館料がかかります。

●時友尚子氏による「日本の伝統的な染色技法」展示会開催のお知らせ。

日本の伝統的な絞り、草木染めをメインに手がける時友氏の作品展示を行います。振り袖や染め軸など、美しい色彩の作品をご覧ください。

○期間: 4月15日(月)~4月22日(月)

○場所: 市庁舎ホール(住所: Mestni trg 1, 1000 Ljubljana)

* 入場無料